

半導体M&A、九州企業に食指 取引関係・技術に照準－シリコンアイランド

2024/11/06 05:00 日本経済新聞電子版 1747文字

全国の半導体関連企業が九州の中小企業をターゲットにM&A（合併・買収）を進めている。国内半導体産業が盛り返すなか、20世紀の「シリコンアイランド」時代から長年培ってきた大手との取引関係や技術力を取り込み、成長につなげる。九州の中小にとっても跡継ぎ不在の解消や技術を生かした事業拡大の契機となる。

「九州に製造拠点を確保しつつ、（チップを電子部品に組み立てる）後工程にも接点ができる」。東証プライム市場に上場する商社、アルコニックスの鈴木匠取締役は、金属加工や計測器の坂本電機製作所（福岡市）を7月に買収した背景をこう明かす。

買収額は非公表だが、坂本電機の2023年1月期の売上高は17億9300万円、純資産は7億8100万円だった。

アルコニックスはこれまで、取り扱う製品群の拡大を目的に10社以上の中小製造業を買収してきた「M&A巧者」だ。半導体領域での成長を模索するなか、これまで同分野の製造拠点がなく、足元で関連企業の設備投資が盛んな九州に狙いを定め買収先を探した。

九州には1960年代後半から半導体工場が集積。2000年のピークには年間のIC生産額が約1兆4000億円にのぼるなど日本の半導体製造をリードしてきた。海外との競争激化などでその後生産額は落ち込んだが、技術力を背景に大手半導体メーカーとの取引関係を続けてきた企業も多い。

坂本電機は東京エレクトロンの九州の生産子会社と1980年代から取引関係にある。ウエハーをチップに切り分ける「ダイサー（切断装置）」など後工程関連装置を手掛けるディスクなども取引がある。ただ、坂本恒俊社長には後継者がおらず、承継先として「上場していて、買った後に転売しない会社を探すのが大きな仕事だと感じていた」。

今後は上場企業グループであることを武器に人材採用を加速。アルコニックスの他の製造子会社と人材・技術交流を進める。受注にあたり子会社間で連携・融通することも検討する。

医療機器や計測器などの修理、保守を手掛ける京西テクノス（東京都多摩市）も、半導体関連の大幅な強化に向けて九州企業の買収をもくろむ。すでに3月、半導体製造装置を開発する福岡のTCKを買収し、10月に吸収合併した。

TCKは2005年創業。文部科学省が熊本で推進していた、半導体製造の高度化に関する研究から生まれた。少量多品種に特化した小規模な半導体生産方式である「ミニマルファブ」向けの電子顕微鏡などを開発・販売してきた。

京西はTCKとの統合により、装置設計・開発のノウハウを取り込む。製造装置の受託生産を手掛ける福島県郡山市の工場で、ODM（相手先ブランドによる設計・製造）ができるようにする。

TCK由来のミニマルファブ向け装置事業も、京西の人的リソースを生かして成長させる。従業員10人程度の規模だっ



アルコニックスが買収した坂本電機製作所の工場（福岡市）



坂本電機製作所は半導体製造装置など向けの金属加工とデジタル計測器⑤を手掛ける

九州での主な半導体関連M&A	
2023年 5月	プレシード（熊本県嘉島町） ・岡本工作機械製作所が10%出資 ・装置設計・開発ノウハウの取り込み
10月	ジェイエムテクノロジー（福岡市） ・兼松が完全子会社化 ・装置保守メンテ強化
11月	大和工機（宮崎県都城市） ・岡本工作機械が完全子会社化 ・装置の生産強化
24年 7月	坂本電機製作所（福岡市） ・アルコニックスが完全子会社化 ・九州・後工程の取引拡大
10月	TCK（福岡市） ・京西テクノスが吸収合併 ・半導体関連事業拡大

たため幅広い展開が難しかった。TCK代表だった小坂光二氏は「事業を成長させるために規模の大きい企業への加入を選んだ」と語る。

京西はミニマルファブやODMなど半導体関連で27年9月期までの3年に累計30億円の売り上げを目指す。臼井努社長は「今後も九州の事業を筋肉質にするM&Aに取り組みたい。福岡拠点の人員を現在の20人から近いうちに倍増させる」と意気込む。

M&Aの成功には買収後の成長戦略もカギを握る。群馬県に本社を置く岡本工作機械製作所は23年に買収した大和工機（宮崎県都城市）に8億円を投じ、半導体製造装置の生産に必要な設備導入を進める。将来は新棟建設も検討する。

岡本は24年6月、三井物産への第三者割当増資を通じ98億円を調達。市場が急拡大するパワー半導体素材である炭化ケイ素（SiC）や窒化ガリウム（GaN）ウエハーに対応した研削機の研究開発を進める。大和工機への投資資金もここから拠出し、25年10月にも同社設備を生かした生産を始める計画だ。

M&Aを通じた半導体供給網の強化は、仲介する金融機関や専門業者にとっても商機となる。肥後銀行は日本M&Aセンターホールディングス、台湾の玉山銀行と組んで新会社「九州M&Aアドバイザーズ」（福岡市）を4月に立ち上げた。半導体産業が集積する九州に関心を寄せる企業は多く、海をまたぐ「越境M&A」も増えるとみて対応を急ぐ。

（坂部能生）

【関連記事】

- ・大分のTMH、東証・福証に12月上場へ 半導体装置保守
- ・九州に半導体投資5兆円 TSMC熊本工場、出荷へ秒読み
- ・半導体製造を止めるな 設備保守企業、九州で体制強化
- ・日本は「巨大マーケット」 台湾企業、九州から食い込む



TCKが開発した電子顕微鏡 = 京西テクノス提供



大和工機は巨大なクリーンルームと20トンをつり下げられるクレーンを持つ = 同社提供

許諾番号30101211 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.